

## ●●●●● 知らなかったでは済まされない ●●●●●

阪神・淡路大震災の惨劇から12年目を迎え、神戸を中心とした被災地等の方々の努力の賜物として、まちに明るさが戻ってきました。しかし、昨年には新潟中越地震、福岡沖地震が発生するなど、地震大国日本の姿に変わりはなく、「地震や災害に強いまちをつくる努力」を怠るわけにはいきません。

### さまざまな危険度の指標があります

#### 建物倒壊危険度

地震動によって建物が壊れたり傾いたりする危険性の度合いを評価したものです。地盤と地域にある建物の種類などによって判定されます。

#### 火災危険度

地震による出火の起こりやすさと、それによる延焼の危険性を測定して、火災の危険性の度合いを評価したものです。出火の起こりやすさは、ガスコンロ、電気ストーブ、化学薬品などの数や使用状況などから算定しています。また、延焼の危険性は、出火した場合の燃え広がりシミュレーションを実施し、焼失する建物の面積をもとに算定しています。この危険性は、木造建物が密集している地域で高くなり、耐火建物が多く、道路、公園などの公共施設が整備された地域では低くなります。

#### 避難危険度

地震によって火災が発生した場合には、まず、初期消火に努め、大火災にならないようにすることが大切です。しかし、火災が拡大し、生命に危険が及ぶような場合には避難が必要になります。避難危険度は、避難場所に到達するまでに要する時間と、避難する人の数を組み合わせて評価したものです。避難危険度は、避難場所までの距離が長く、避難道路沿いに避難の障害となる要因が存在し、避難する人の数が多いほど高くなります。

#### 総合危険度

「建物倒壊危険度」、「火災危険度」、「避難危険度」の3つの危険度の和を5ランクに分けて、表しています。



阪神・淡路大震災で、ガレキの山と化した民家（撮影者：目黒公郎）



阪神・淡路大震災の焼死者の多くは、建物倒壊の下敷きで逃げ出せずに焼死している（撮影者：目黒公郎）  
写真出典：東京直下大地震生き残り地図 旬報社

監修：東京大学教授 目黒公郎

### 日頃の備えの第一歩

この池袋本町に住んでいて、何をどう備えればいいのか？

1月17日を前にそんなお話しをしていきたいと思えます。

木造建物が密集し、道路の狭い池袋本町のまちを歩いて思い出されるのは、過去の地震の教訓です。阪神・淡路大震災の犠牲者の86.6%が自分の住んでいる家で亡くなっています。そして、死亡原因の8割以上が家具の転倒や家屋の倒壊によるものです。1978年の宮城県沖地震では、死者28人中18人がブロック塀等の倒壊により亡くな

っています。こうしてみると、自分の住んでいる家自体が凶器になっています。

自分の家を凶器にしないためには、日頃の備えが重要です。その第一歩として、家屋やブロック塀の耐震診断・補強や家具の転倒防止をぜひ実施して欲しいと思います。

みなさんは、様々な災害の教訓を自分の暮らし向きにあった形で自分のものにしてますか？水や食料・非常持ち出し袋の準備も大切ですが、これらは生き残ってから使うものです。現在、建物の耐震性の関心が高まっています。思い立ったが吉日、今やれるところから確実に実施していきましょう。（井上浩一/防災ネットワークプラン）

新しいまちづくりの会は、みなさんのご意見をお待ちしております。  
もちろん、新しいまちづくりの会の委員も募集中！（協議会以外も見学自由です）

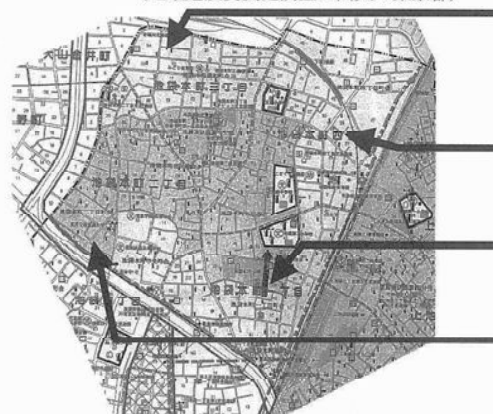
## ●●●●● 池袋本町の震災危険度を知ろう！ ●●●●●

このようなまちづくりを進めるためには、住民のみならず一人ひとりが、住んでいる地域の危険について正しく理解し、日頃からの備えと十分な対策を講じることが重要です。東京都が5年おきに行っている、地震に関する「地域危険度測定調査」（第5回：平成14年）の結果を紹介いたします。

### 池袋本町の危険度は・・・

丁目	建物倒壊危険度	火災危険度	避難危険度	総合危険度
	ランク	ランク	ランク	ランク
1丁目	2	3	5	3
2丁目	2	4	5	3
3丁目	4	4	5	5
4丁目	4	3	5	5

（地域危険度測定調査の出典：東京都）



### 危険度特性評価

3つの危険度のランクの組み合わせにより、危険度の特性を表しています。

3つのローマ字の並び順は、建物倒壊危険度、火災危険度、避難危険度の順で、「A」は各危険度の危険度ランク1から3まで、「B」は危険度ランク4と5でグループ分けしたものです。

#### 【丁目ごとの危険度特性評価】

3丁目【BBB】  
建物倒壊、火災、避難の全てに注意すべきまち

4丁目【BAB】  
建物倒壊と避難に注意すべきまち

1丁目【AAB】  
避難に困難を伴うまち

2丁目【ABB】  
火災と避難に注意すべきまち

### 「1月17日を感じるつどい」ご参加ください！

#### 感じる 想像する 被災のその時、その日、そのあと・・・

1995年1月17日朝5時46分、大地がゆれた。その時、人々は・・・  
そして長い1日が終わり、次の日、そしてまた次の日・・・  
12年目を迎える2006年1月17日朝5時46分。  
池袋本町防災ひろばにつどい、その時を感じ、想像する。  
そして、それぞれが、それぞれの1日を過ごし、夕方、ひろばに帰ってくる。  
あなたもそのひとりになってください。

◇日時①朝のつどい 2006年1月17日朝5:30~6:00  
②夕べのつどい 2006年1月17日夕5:00~9:00

◇内容①「感じる・祈る」  
集まるー感じる・黙とう・感じるー解散  
②「感じる・語り合う」  
集まるー感じる・想像する・語り合うー解散  
（防災ひろばのカマドベンチで夕食をつくる・食べる）

◇集合場所：池袋本町防災ひろば  
◇参加費：100円（夕食汁材料費）  
◇持参品：ごはん、マイ器2ヶ（汁・お茶用）、マイ箸、カイロ、毛布など身体を温めるもの

※救援食料差し入れ歓迎  
◇主催：池袋本町防災ひろば かぎの会（ひろば見守り隊）  
◇共催：池袋消防署  
◇協力：池袋消防署

現在、防災ひろばは、区と住民が協働でかぎの開閉等を行っています  
「かぎの会（ひろば見守り隊）」のメンバーを募集中。ご希望の方は事務局まで！